

わが国における鶏封入体肝炎の発生例

誌名	鶏病研究会報
ISSN	0285709X
著者	堀内, 貞治
巻/号	10巻3号
掲載ページ	p. 104-104
発行年月	1974年10月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



《資 料》

わが国における鶏封入体肝炎の発生例

昨年(1973年)以来、わが国でも鶏封入体肝炎(略号: IBH または IBHC)の発生が各地で注目されている。この病気の原因として、トリアデノウイルスが強く疑われているが、発病要因についての解明は充分ではない。従って、現在までのところ、本病の診断は、病理学的検査による肝細胞の核内封入体検出を決め手としている。

ところで、鶏封入体肝炎は、下に掲げる一覧表にも見られるように、かなり以前から散発してい

たことが想像される。本病を摘発した者の大部分が、筆者を含めて公表を怠り、あるいは学会の口頭発表ないしは部内報掲載程度の処理に止めたために、文献として引用できるものが少ないのは残念である。今後は、貴重な資料を生かすという意味からも、本誌が活用されることを望みたい。なお、筆者が蒐集したこれらの資料の他にも、本病に関する多数の経験例があるものと考えられる。

発生年・月	摘発(報告)者	発生県	用途	発生日齢	群の羽数	発生率(%)	陽性/検査	備 考
? (1953-1965)	堀内貞治	? (複数)	卵	? (主に成鶏)	? × 多数	極小	極少/多数	(病変はごく軽)
1966・9	佐藤 隆	奈 良	肉	40-50	700	5.7	2/2	
1968 春	中松正雄ら	鳥 取	肉	40-50	500×3	20-25	? (3/4)	学会発表
? (1968 以前)	米道裕弥	北 海 道	? (卵)	175	?	?	? (1/7)	学会発表
? (1970 頃)	西田正剛	? (埼玉)	?	?	?	?	? (1/?)	
1972・9	板倉智敏ら	鳥 取	肉	36-50	6,000	? (10)	? (?/18)	紙上発表
1973・7	山中進吾ら	三 重	肉	35-40	900	25	2/3	本誌掲載
1973・9, 11	細川 大ら	鳥 取	肉	40-55	?	?	?	総会話題
1973・12	柴谷増博	兵 庫	肉	? (?-46-?)	?	?	2/2	
1974・1	合田光昭ら	愛 知	肉	34-40	1,116×2	3-6	6/12	学会発表
1974・4	合田光昭ら	愛 知	肉	30-51	1,043	29	6/8	学会発表
1974・4	藤田 満	福 岡	肉	40-53	?	10	1/4	
1974・6	入岡徹生	愛 媛	肉	28-?	2,000; 3,000	?	? (?/12)	

(堀内貞治)